

2021 年度

# 国 語

(1 期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 50分)

番 号		氏 名	
--------	--	--------	--

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、句読点や記号をふくみます。)

毎日つまらねえなあ。やつてられねえなあ。まずは、そこから始めてみようか。そこで福沢諭吉だ。フクザワユキチだ。一万円札に写っている、あの人だよ。

この人が、『学問のすすめ』という本を書いている。明治時代のベストセラーだ。正確に書くと『学問のすゝめ』だけどね。この本のなかで有名になったのが、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という言葉だ。学校の先生から、聞いたことがあるかもしれない。

ところが現実には、世間をみわたしたって、人間が平等であるとは、とても思えない。そしてじつは福沢自身も、そんなことは書いていない。じつは、福沢の『学問のすすめ』には、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という言葉のあとに、こう書いてあるんだ。現代語訳を太字で書いておくから、読んでみるといい。

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといわれる。……しかし、広くこの人間世界を見渡してみると、かしこい人もあれば、おろかな人もある。貧しいやつもいて、豊かなやつもいる。貴人もあれば、下人もある。そのありさまは雲泥の差があるようにみえるが、それはなぜだろうか。その原因はまったく明らかである。……賢人と愚人との差は、勉強したかしないかで、できるものなのだ。(中略)……人は生まれながらにして貴賤貧富の別はない。ただ努力して勉強し、物事をよく知る者は貴人となり金持ちになる。無学な者は貧乏人となり下人になるのだ……(後略)。

『学問のすすめ』の文章が述べているのは、こういうことだ。人間は平等だというけれど、じつさいはそうじゃない。勉強をするやつは成功して金持ちになり、勉強をしないやつは貧しい下人になる。だから勉強しなさい。それで『学問のすすめ』というわけだ。わかりやすい話だろうか？

こういう原理が支配している世界は、なかなか「やつてらんない」世界だ。勉強したらえらくなる、勉強しなければ下人になる。まさに弱肉強食の競争社会だ。しかもそれだけじゃない。福沢じしんはけっこう「実学」を重んじた人だったが、いまの(戦前もそうだったけれど)学校でや

らされる勉強の内容そのものは、そのほとんどが実社会の生活には役に立たないものなんだ。A、医者や技術者になったり、先生や官僚かんらうになったりして、学校で習った理科や社会の知識が直接に役立っている人もいる。Bほとんどの人にとつては、学校でやっている勉強の大部分が、いまの日本の社会生活で直接には役立たないということを、じつは誰でも知っている。

C、君が小学校四年生くらいまでは、宿題がわからないでいると、ご両親が教えてくれただろう。でも五年生くらいになったら、親はもう「自分で勉強しなさい」とか「先生に聞きなさい」というわけだ。

つまり、親のほうも「小学校五年以上の勉強なんかわからない」ということ。うらを返していえば、X「X」ということを、親が身をもって示しているわけだ。

ということは、だいたい小学校五年以上は、将来「下人」にならないように、人と差をつけて蹴落けおとすために、勉強のための勉強、試験のための試験をしていることになるのだろうか？ こういう疑問を抱いだきながら勉強していて、いやにならなかつたら、そのほうが不思議だ。

しかし、ここでわからないことがある。なぜ勉強した人のほうがえらくなるのか？

学校の勉強が、ほとんどの場合には実社会での生活で役に立たないのだったら、なぜ勉強なんかするのか？ 勉強なんて、将来は技術者になるときめている人とか、勉強が好きでやりたいやつだけがしていればいいんじゃないのか？

じつはこれは、けっこう根が深い問題なんだ。③日本の近代は、江戸時代が終わり、明治維新いしんがおきた一八六八年から始まったとされている。そして一八七二（明治五）年には、できたばかりの日本政府は「学制」という制度をしいて、小学校を全国にたくさんつくり、やがて「義務教育」というかたちにした。

この「義務教育」というのは、英語の Compulsory Education の翻訳ほんやくで、明治時代には「強迫教育きょうはく」と訳されてもいた。つまり、国中の子どもは、「強迫」してでも学校に通わせるというわけだ。この訳のほうが、君たちの実感にちかいかもしれない。

（中略）

それじゃ、なぜそうまでして、国民を教育する必要があるんだろうか？

さつき、福沢諭吉は『学問のすすめ』で、「勉強したやつはえらくなる、勉強しなかつたやつは下人になる」と書いた、といった。ところが注

意しなくちゃいけないのは、こういう主張は、当時としては **I** なことだったということだ。

というのも、福沢が『学問のすすめ』の第一編を公表したのは「学制」が公布されたのおなじ一八七二（明治五）年のことだったけれど、それからほんの数年前の江戸時代は、「勉強したやつがえらくなる」という時代じゃなかった。

その時代はどうだったかというと、基本的には「武士の息子は武士、商人の息子は商人、農民の息子は農民。女の子はおなじ身分の人と結婚する」という原理で、世の中は動いていた。つまり、勉強したかしないかなんて、関係ない。親がどういう身分かで、子どもの身分も、将来の仕事も、 **II** にきまるといって社会だった。

福沢が『学問のすすめ』をわざわざ書いて、それがベストセラーになったのは、それがあたらしい時代の原理を示すものだったからだ。つまり、江戸時代が終わって、武士とか農民とかの身分も廃止になり、「武士の息子は武士」というしくみの社会ではなくなった。

そこで福沢は、『学問のすすめ』を書いた。これからは、身分ではなくて、学問で自由競争をする時代だ。親が農民でも、勉強さえすればえらくなれる時代なんだ、という宣言を書いたわけだ。だからこそ、ベストセラーにもなったわけだ。

<sup>④</sup>これは、一見、よい社会になったようにもみえる。勉強は好きじゃないけれど、親の身分で自分の未来がきまってしまいう社会は、もつといやだ。いまはむだに思える学校や受験の勉強も、将来の自分がどんな職業に就くか選べる自由とひきかえだというなら、がまんするしかない。そう思う人もおおいだろう。

それじゃ、日本政府は、そういうチャンスを全国民に与えるために、義務（強迫）での教育制度をしいたんだろうか。たしかに、明治五年にいまの学校制度のもとになる「学制」を發布したとき、政府は「学問ハ身ヲ立ルノ財本」だとなえる文書をいっしょに発表している。学問は立身出世の元手なんだ、だから学校へ行きなさい、というふうには。

しかし考えてみれば、勉強をして出世したいという人もいるだろうけれど、自分は親のあとを継いで農民になるから勉強なんかしたくない、という人もいるはずだ。だったら、勉強して出世したい人だけ、学校に行けばいい。国中の子ども全員を **III** に学校に行かせる必要なんか、ないことになる。

なにより、自由競争の時代になったら、江戸時代の支配者だった武士たちが、いい思いをするはずがない。これまでは親が武士だったら、自分も武士になれる特権が保証されていた。身分制度がなくなったら、そういう保証もなくなるわけだからね。

じつさいに、明治維新のあとは、身分制度に反対するなどして、武士の反乱があいついだ。いちばん大きな反乱は、西郷隆盛をリーダーに据えた薩摩（鹿児島）の武士たちが一八七七（明治一〇）年に起こした反乱で、歴史の教科書では「西南戦争」という名前がついている。

こういった反乱を鎮圧するのに、政府はたいへんな労力とお金をつかった。そうまでして、身分制度をやめて、自由競争の世界にすることに、どんなねらいがあったんだろうか。

身分の低い人たちにも平等にチャンスを与えるという、理想があったからなんだろうか。しかし、政治はそういう理想だけでは動かない。結論からいうと、自由競争の社会にしたのは、「日本という国」を強くするためだったとっていいと思う。

自由競争にすると、なぜ国が強くなるんだろうか？ 福沢は『学問のすすめ』で、こう書いている。

（前略）…かりにここに人口百万人の国があったとしよう。このうち千人は支配者である智者で、九十九万余りの者は無智の小民である。智者の才徳をもってこの小民を支配し、あるいは子のように愛し、あるいは羊のように養い……小民も知らずしらすのうちに上の命令に従い、盗賊や人殺しのような事件もなく、国内が安定して治まることができよう。しかしこの状態だと、この国の人民は、支配者と小民の二種類に分かれ、主人である者は千人の智者だけで、よいように国を支配し、その他の者はみんな何も知らない客分だ。……国内のことならばこれでもともかくなるだろうが、いったん外国と戦争などがあつたら、その不都合なことを思い知るだろう。戦争になったら、無智無力の小民たちは……われわれはお国のことなんか何も知らない客分だ、だから命を棄てて国に尽くすのなんか過分のことだといって、逃げ去ってしまう者がおおいだろう。だとすればこの国の人口は、名目上は百万人だけでも、国を守るといふ段階になったら千人の智者しか戦わない。これでは、とても一国の独立はむずかしい。

一般人民を無教育にして、国の政治のことなんか何もわからないようにしておけば、国を少数の支配者が思うがままに治めることができる。武士だけが政治をやって、農民や町民は、政治のことは武士にまかせきり。江戸時代の社会は、そういう体制だった。

だけど、これは平和なときは国内が安定してよいかもしれないが、いざ戦争となつたら、農民や町民はみんな逃げだしてしまうだろう。だから、支配階級だけでなく、一般人民も教育しなければならぬ。福沢は、こう主張したわけだ。

じつはこういう事態は、幕末にじつさいにおこったことだった。たとえば、長州藩が欧米の四か国連合艦隊と戦ったとき、戦ったのは長州の武士だけで、長州の農民や町人は「戦争や政治は武士の仕事だろ」と知らん顔。

それどころか、欧米の軍勢が上陸したときには、長州の農民や町人は、長州軍の砲台をかたづけられるを手伝ったという。こういう状態を改善するためには、身分制度をやめて、農民や町民にも教育をつけさせ、自分も「日本という国」の運命をになう地位に出世できる可能性があるんだ、と自覚をさせなければならぬ。こういうことを、福沢は主張したわけだ。

(小熊英二『日本という国』より一部改変)

問一 —— 線①「貴賤貧富」と同じ組み立ての四字熟語を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 一喜一憂      イ 老若男女      ウ 起承転結

エ 大器晩成      オ 晴耕雨読      カ 栄枯盛衰

問二 —— 線②「なかなか『やってらんない』世界だ」とありますが、なぜですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかく学校でたくさん勉強をしたのに、その勉強は実生活ではあまり役に立たないものだから。

イ 人間は平等だというのに、現実世界では貧しいものも、成功してお金のあるものもいるから。

ウ 勉強するかしないかで将来が決まるといふ話に『学問のすすめ』というタイトルをつけているから。

エ 大人になってからの実生活では役に立たない学校の勉強の成績で将来が決まってしまうから。

オ せっかく人間は平等だと考えられるようになったのに、勉強をしないといけない原理に支配されているから。



問八 〽線「自由競争の世界にすることに、どんなねらいがあったんだろうか」とありますが、どのようなねらいがありましたか。七十五字以上百字以内で答えなさい。

問九 本文は次の一文がぬけています。どこに入れるのがもつともふさわしいですか。その直後の五字をぬき出し、答えなさい。

それよりは、勉強したかしないかで未来がきまるほうが、まだましに思える。

問十 次の記号のうち、本文の内容にふさわしいものには「○」、ふさわしくないものには「×」と答えなさい。

ア 福沢諭吉の『学問のすすめ』の教えが「人間はみな平等」という風に勘違いされたのは、『学問のすすめ』の内容が明治時代にはまだ新しいものであり、人々にはなかなか理解できなかったからである。

イ 西洋諸国との関係ができる中、明治政府は江戸時代の身分制度の問題点を踏まえて、国民全員を強制的にでも学校に行かせて勉強をさせることで、日本という国を守ろうとした。

ウ 明治一〇年に西郷隆盛らによって起きた「西南戦争」は、江戸時代までの身分制度がなくなり、自由競争の社会となることで、学校に行きたくない人にまで学校に行かせようとすることへの反対運動の一つであった。

エ 江戸時代の農民や町民たちは、武士のように学校に行つて勉強ができず、努力しても支配階級になることができないので、武士が国のために協力を求めても彼らは武士への反抗心や憎しみから協力をしなかった。



〔一〕 次の文章を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。(字数制限のあるものについては、句読点や記号をふくみます。)

酒井美羽(「あたし」)が通う中学に、転校生がやってきた。「サッチ」こと小宮山幸栄は転校初日から自己紹介を拒絶し、堅物の担任「ロツテンマイヤーさん」を怒らせる。その後も校則違反のポニーテールをやめようとせず、給食を食べると帰ってしまうサッチは、事あるごとに先生に呼び出されていた。ある日サッチは、優等生のクラス委員を恐がらせることでクラスの皆に「アピール」しよう和美羽を誘う。

給食が終わって帰ろうとしたサッチは、ロツテンマイヤーさんに呼び出された。今さら髪型のことでもないだろう。何かやらかしたとか？

あたしはふだん通り美術室で、昼休みを過ごした。美術室の A とした空気に包まれて、万華鏡をのぞく。でも、いつもみたいにはつとした気分になれない。万華鏡の中が赤に金色の派手な模様になったところで、のぞくのをやめた。

窓枠にもたれて、校庭を眺める。今にも雨粒が落ちてきそうな B としたくもり空。上に砂利を敷いた校庭には誰もいない。校舎のどこから聞こえるざわめきには耳をふさいで、あたしは、砂漠を想像する。はてしなく続く砂丘は、風が美しい模様を描いている。あたしは、風に流されていく砂の一粒。砂漠で見る夕日はとてつもなく大きいんだろうな……。

ガタツという音で C として振り返る。なんのことはない。ただ、誰かが椅子をひいて立ち上がったただけだった。

ふいに、サッチの台詞を思い出す。「アピールに決まってるんだろ」——。力を示したいつてことか。力を示して、ビビらせて……、言うことをきく自分でも作る気？ でも、そもそもサッチは群れるタイプか？ 大勢率いて、のし歩く姿はイメージできない。あー理解できない。

だけど、きつと、サッチは風に流されていく砂じゃ嫌なんだ。「関係ない人」じゃなくて、「関係したくない人」でも何でもとにかく「関わりた人」なんだ。あたしは学校なんかどうでもいいから、放っておいてほしいし、煩わしいのはごめん。サッチは煩わしいのを望んでいる——そう考えるとサッチのほうが、X とも思えた。え？ マジ？ そりゃないよね。

サッチはチャイムが鳴っても戻ってこなかった。ぽつぽつ降り出した雨があつという間に激しくなる。

サッチが職員室で暴れている光景がリアルに浮かんだとき、教室のドアが勢いよく開いた。サッチだ。鬼のような顔でドカドカと席に行き靴を取ると、そのまま教室を出ていった。

雨は、帰りになってもやまなかつた。傘を開きながら唯ちゃんが言う。

「サッチ、ずぶ濡れになっちゃったんじゃないかな。風邪ひかなきやいいけど」

そういうえば、サッチは傘を持たずに教室を飛び出していった。あときは、今よりも雨が激しかった。

「傘持って追いかけたかったけど、勇気出せなかつたよ」

唯ちゃんが、がっかりした声を出す。サッチの傘を気にしたのは、学校中で唯ちゃんだけだとあたしは思う。

「唯ちゃんって、ほんとやさしいな」

**D**と口に出したら、唯ちゃんが「そんなことない」と否定した。

「ほんとだって。ひろ君の面倒もちゃんとみてるし、食事もきちんと作ってて、マジ偉いよ」

「やめて！」

唯ちゃんは、珍しく強い口調で言う。傘で顔を隠すようにして「そんなことない」と、またつぶやいた。今度は弱々しい口調だった。

あたしたちは黙って歩いた。こんなときになにを言ったらいいのか、わからなかつた。傘にあたる雨の音がやけに大きく響く。

公園まで来たとき、唯ちゃんが口を開いた。

「私、ひろがいなければいいのにな、何度も思った」

⑦え？つとあたしは息を飲み込む。

「小学生のときから放課後みんなで遊ぶこともできなかつたし、自由研究の集まりにも行けなかつた。みんなは『偉い子だから仕方ないよ』って言って、途中からは声もかけられなくなつた。『洗濯しなくっちゃ、お料理しなくっちゃ、弟の面倒みなくっちゃ、偉いね』っていうのはやし歌みたいなのを陰で歌われてた」

「そっか」

「修学旅行も行けなかった。おばさんが預かってくれる予定だったんだけど、ひろが熱出して『おねえちゃんおねえちゃん』って泣いたの。ふだんだって勉強に集中できないし、ご飯の支度して食べて片づけて、洗濯して……、一生こうなのかなあってうんざりする」

「そっか」

「ひろが悪いわけじゃないのに、憎たらしくなっちゃって。そういう自分が嫌になる」

「そっか」

「でも、ひろの笑顔見るとがんばろうって気になって、疲れるとまた嫌になって、その繰り返しだもの」

「そっか」

あたしはバカみたいに同じ返事を繰り返した。

唯ちゃんがこんなこと言うの、初めて聞いた。生まれながらに偉くてやさしい人だって勝手に解釈していた。そんな人、いるわけなのに。あたしは、唯ちゃんの大変さや気持ちをはじめに考えたことがなかったことに気がついた。あーなんてだめな奴だろう、あたし。

「今度……」

あたしはやっと「そっか」以外の口をきいた。

「はやす奴がいたら……」

「え？」

「ぶつとばす」

唯ちゃんがぶつと吹き出した。

「なんだかちよつとサツチみたいだねえ」

「うえっ、やめて！」

冗談じゃないって言いたかったけど、唯ちゃんが楽しそうに笑うから、ほっぺたをふくらませるだけにしておいた。

分かれ道で、唯ちゃんは「聞いてくれてありがとう。元気出た」と、言った。

⑩「美羽は、人を元気にする力があるよ」

唯ちゃんは、あたしにメモを渡した。

「サッチの携帯番号だつて。ほんとは、美羽に渡したかったんじゃないかな」  
なんだかわからないけれど、あたしはメモをポケットに入れた。

(長崎夏海『クリオネのしっぽ』より一部改変)

問一 文中の A D に入る言葉としてふさわしいものはどれですか。次の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使えません。

ア しれっ イ ぼんやり ウ はっ エ ぼろっ オ どんより カ しん

問二 —線①「いつもみたいにほっとした気分になれない」とありますが、それはなぜですか。二十字以内で答えなさい。

問三 —線②「あたしは、風に流されていく砂の一粒」とありますが、ここから美羽がどのようにありたいと考えていることがわかりますか。

「サッチ」と比べながら説明しなさい。

問四 —線③「のし歩く」・⑧「はやし歌」の意味としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

③ のし歩く ア 偉そうな様子で歩く ⑧ はやし歌 ア わかりやすい言葉で優しい心を歌う歌

イ 心躍る様子で歩く イ 次々に相手をほめたたえて歌う歌

ウ 誇らしげな様子で歩く ウ 声をそろえて、からかって歌う歌

エ おびえた様子で歩く エ 相手への恨み言をくり返し歌う歌

オ 落ち着いた様子で歩く オ つらい身の上を明るく笑い飛ばして歌う歌

問五

X

に入る言葉としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 人を好きなのかも

イ 流されることが好きなのかも

ウ 砂漠が好きなのかも

エ 学校が好きなのかも

オ 先生が好きなのかも

問六——線④「強い口調」・⑤「弱々しい口調」とありますが、なぜこのように「口調」が変化したのでしょうか。次の中からもっともふさわしいもの一つ選んで、記号で答えなさい。

ア もともと、自分のことを偉いと思っていなかったのに、突然周囲の人々に偉いとほめられて戸惑い、思わず「強い口調」になったが、よくよく考えてみれば、もっと前から自分は精一杯頑張ってきたのに長年認められなかったということに気づき、悲しくなって「弱々しい口調」に変化した。

イ 最初は、周囲の人々から本当は偉くない自分のことを、勝手に偉いと決めつけられることに対してうんざりして反発する気持ちから「強い口調」になったが、弟が悪いわけではないのに憎たらしく思ってしまう自分を思い出し、そんな自分のことが嫌になって落ち込む気持ちになったため「弱々しい口調」に変化した。

ウ 美羽から「やさしい」「偉い」という言葉を投げかけられて、他の人からかけられたどんな言葉よりもうれしかったが、同時に恥ずかしくもあったので「強い口調」になったが、いつも頑張っている弟のことを思うと、自分だけがほめられて、それに満足して喜んでいる自分が恥ずかしくなって「弱々しい口調」に変化した。

エ サッチのことを心配したことに對して「ほんとやさしいな」と言った美羽は、きっとサッチに嫉妬しているものであり、そんな美羽に對して腹が立ったので「強い口調」になったが、よく考えてみれば、サッチが気になって、美羽のことを全く構ってやらなかった自分の行動は反省すべきで、美羽に對して申し訳なくなつて「弱々しい口調」に変化した。

オ いつもつらそうにしているサッチのことや弟のことが心配で世話を焼いていたのに、それをバカにするような美羽の言葉にかつとき「強い口調」になったが、実はサッチや弟に對するお節介が二人を苦しめていることに気づかされ、それを教えてくれた美羽に對して感謝すると同時に情けない気持ちになったため「弱々しい口調」に変化した。

問七——線⑥「傘にあたる雨の音がやけに大きく響く」とありますが、この表現は、誰のどのような心情を表していますか。次の中からもっともふさわしいもの一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 美羽の、ひろ君に対する後ろめたさを表している。

イ 唯の、美羽に対する腹立たしさを表している。

ウ 美羽の、自分を情けなく思う気持ちを表している。

エ 唯の、何かにおびえる気持ちを表している。

オ 美羽の、唯に対する戸惑いを表している。

問八 — 線⑦「え？つとあたしは息を飲み込む」とあるが、それはなぜですか。説明しなさい。

問九 — 線⑨「ほつべたをふくらませるだけにしておいた」とありますが、それはなぜですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 唯にサッチと似ていると言われて驚いたが、周囲の人々からのけ者にされて苦しんでいた唯が、サッチのことを気にかけることで、優しい心と明るい笑顔を取りもどしたことがうれしくて、もっと唯を楽しませてあげたいと思ったから。

イ 唯にサッチと似ていると言われて腹立たしかったが、いつも苦労してためつたに笑うことなどない唯の楽しそうな笑顔を見て心がなごみ、理解できない行動をとるサッチを嫌いだと思う気持ちが薄らいだから。

ウ 唯にサッチと似ていると言われて、本当はうれしかったが、周囲からの誤解に心を痛めている唯の前でうれしそうな顔をしては申し訳ないという思いがわいてきて、このうれしい気持ちを唯に悟らるるにはいけないと思ったから。

エ 唯にサッチと似ていると言われて否定したい気持ちが起こったが、一方で納得する気持ちもあり、大変な日常を過ごしているにも関わらず、サッチや自分のことを本当によくわかってくれている唯への感謝の思いを示したいと思ったから。

オ 唯にサッチと似ていると言われて納得できなかったが、唯の大変さや気持ちを真面目に考えずに「偉い」と言ったことで唯がうらやまにしていたので、楽しそうな唯の気持ちに水を差すようなことは言わないでおこうと思ったから。

問十——線⑩「美羽は、人を元気にする力があるよ」とありますが、唯は美羽のどのようなところに対してこう言ったのですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 普段はかくしていて他人には見せない、心の弱い部分を聞いてくれて、心から味方になってくれるところ。
- イ 危なっかしくて憎めないサッチのことを、自分と同じように大切に思っ、彼女のために行動してくれるところ。
- ウ 他の人の前では出せない恥はずかしいところも、ありのままに受け止めて前向きな意見をくれるところ。
- エ いつもは意地をはって声をかけてくれないが、本当に困っている時には話かけ、助けてくれるところ。
- オ 誰に対しても常に誠実に向き合い、友達のためには自分を犠ぎせい牲にしても守ろうとしてくれるところ。

### 〔三〕

次の——線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ改めなさい。

- ① 長年ツカえた社長と別れる。
- ② とてもカクシンので新しい案だ。
- ③ 人にサシズをするような資格はない。
- ④ お菓子をキントウに分ける。
- ⑤ 話し合いはイギのある良いものでした。
- ⑥ 立方体のヨウセキを求める。
- ⑦ 紙を束にして片づける。
- ⑧ 苦い経験を思い出す。